

# 募金の活用について

日本固有の純粋な在来馬種(日本在来馬)は、北海道和種(北海道)、木曾馬(長野県)など、現在8種類が存在します。

そのなかでも、野間馬(愛媛県)、対州馬(長崎県)、宮古馬(沖縄県)については、残存頭数が非常に少なく絶滅の危機に瀕しており、文化的価値の高い日本在来馬の頭数の維持・増加を図ることを目的として、皆様からご支援をいただきました募金を活用し、以下のような取り組みを行いました。

## 対州馬放牧場の整備

【目保呂ダム馬事公園内(長崎県対馬市)】

2018年(平成30)寄付分

対州馬は、平成17年に25頭まで減少し、絶滅の危機に瀕した状況となりました。その後、対州馬保存会が中心となり、目保呂ダム馬事公園の周辺に4カ所の放牧場を整備するなど、各種の対策を講じた結果41頭まで増加しましたが、飼養管理の問題等から放牧場の拡充・整備が必要となっていました。

この問題を解決するため、公益財団法人馬事文化財団では、皆様の募金を公益社団法人日本馬事協会に寄付し、平成30年に新しい放牧場の牧柵整備を行いました。「種の保存の一つの目安となる50頭以上への増頭」は、対州馬の保存方策の目標の一つに掲げられています。新放牧場は、2ヘクタールの面積を有し、専門スタッフが常駐する馬事公園からも一望できる好立地にあります。また、馬運車を使用することなく、曳き馬での馬の入れ替えが可能など、作業の効率化を図りながら行き届いた飼養管理ができる環境が整備されたので、今後の「50頭以上への増頭」という目標達成に、大きく貢献していくものと期待されます。

これからも、皆様からの募金・寄付金を活用して、在来馬の保護活動に努めてまいりますので、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

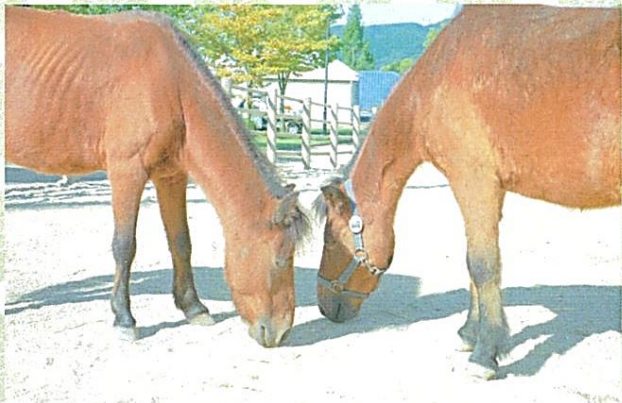


新設された牧柵・門扉



## 超音波画像診断装置（エコー）の導入 【野間馬ハイランド（今治市）】

2015年（平成27）寄付分



絶滅の危機に瀕する馬種のうち「野間馬」は、平成18年度に総頭数85頭まで回復しましたが、ここ数年、急激な飼養頭数の減少が見られ、現在、残存数が約50頭となっています。

さらに若い雌馬の頭数が非常に少ない状況であることも絶滅の危機が心配されるところです。

増頭対策の手段の一つとして雌馬を効率よく妊娠させることが必要と考えられるため、公益財団法人馬事文化財団では皆様の募金を公益社団法人日本馬事協会に寄付し超音波画像診断装置（エコー）を導入、「野間馬ハイランド（今治市）」に於いて活用します。

同装置の活用により卵胞の発育状態を確認することで正確な交配適期の判定や妊娠鑑定が可能となり、仔馬の生産に効果が期待されるものです。

今後も、皆様からの募金・寄付金を活用して、在来馬の保護活動に努めてまいりますので、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

### 超音波画像診断装置（エコー）



鑑定風景



### エコー診断画像



種付15日目



種付30日目